

日本との関係を重視 日本語の達人を養成する バクー国立大学

世界最大の湖・カスピ海の西岸に位置するアゼルバイジャン共和国の首都バクーは、今、世界で一番景気がよい街かもしれない。20世紀初頭には、世界の石油の半分以上を産出していたバクー油田を持つアゼルバイジャンは日本にとって一層重要な国となってきた。そのアゼルバイジャンで最も歴史の古い大学であるバクー国立大学には、日本語の達人を養成するコースがある。設立の経緯や日本との関係について、マハラモフ学長に話を聞いてきた。



取材
アンテナ・プレススクール校長
石井 至さん

いい・いたる／1965年北海道生まれ。東京大学医学部卒。Ph.D.。当誌アドバイザー。駐日ルワンダ共和国大使館特別顧問、関西大学経済・政治研究所研究員、東京都市大学付属小学校学校評議員などを務める。『慶応幼稚舎』（幻冬舎新書）など著書多数。

お話を聞かせてくれたのは



アベル マハラモフさん
バクー国立大学 学長

Dr. Abel Maharramov / 1950年、アゼルバイジャン・アグダム地方生まれ。バクー国立大学化学科卒業。モスクワ国立大学にて博士号取得。バクー国立大学講師、准教授、教授などを経て1999年より現職。国會議員。アゼルバイジャン・日本議員連盟会長も務める。

School Data

所在地／アゼルバイジャン・バクー市
開校／1919年
設置学科／19学部（数学部、物理学部、化学部、法学部、東洋研究学部など）
Web / <http://bsu.edu.az>

バクー国立大学は 約百年の歴史を持つ総合大学

マハラモフ 石井さんは、今回で当大学への訪問は2回目ですね。大学の印象はどうでしたか？

石井 昨年の11月に、アゼルバイジャンのバクーで開催された国際会議に参加したとき、偶然にマハラモフ先生にお目にかかり、バクー国立大学を訪問させていただきました。そのときに、東洋研究学部の極東言語文学科日本科の学生さんたちとお目にかかる機会がありました。日本に行ったことがないというのに、学生さんたちの

日本人の 奥ゆかしさに感動

石井 日本のこういうところに感動したのですか？

マハラモフ 特に感動したのは日本人の話し方です。断るにしても、はつきりとは言わず曖昧に言うのですが、それでも相手が分かるように言う。相手に対する敬意が現

日本語がとても流暢なのに驚きました。このバクー国立大学は、アゼルバイジャンの中ではどういう位置づけの大学ですか？
マハラモフ バクー国立大学はアゼルバイジャンで最も歴史のある大学です。1919年の創立です。アゼルバイジャンがソ連（当時）の一部になったのが1936年です。それから、大学はその前から存在していました。ヘイダル・アリエフ前大統領も当大学の卒業生です。石井 日本科を設置したのはどういう経緯からですか？
マハラモフ 私が日本に関心を持ったのは2000年に初めて日本を訪問したことがきっかけです。政治家としてではなく、学者として文化交流のメンバーに選ばれて訪問したのですが、来日してみて日本の姿に感動しました。

BOOK レビュー

親&子ども向けに
話題のブック&教材を紹介!
親子で楽しんでみませんか?

親に読んでほしい! 子育てに役立つ一冊



国語の教科書から消えた
心に響く名作・名場面

著：小宮山博仁
日本文芸社
1365円
国語の教科書に載る作品は「むしろ社会に出ていろいろ経験したからこそ、その作家が何を伝えたいかわかる」と語る著者。そこで教科書から消えてしまった名作を抜粋。時代背景とあらすじが語句解説とともにまとめられています。



子どもの頭痛
頭が痛って本当だよ

著：藤田光江
メディカルトリビューン
1680円
頭痛というと大人の病気という気がするけれど、子どもが頭痛を訴えて小児科を受診するケースが多いのだそう。小児科医として勤務してきた著者が、幼児～思春期に起こりがちな頭痛のメカニズムと家庭でのケアを解説した一冊。



ディズニーとキッザニアに学ぶ
子どもがやる気になる育て方

著：我孫子薫、数住 伸一
総合法令出版
1470円
ディズニーリゾートとキッザニアという人気の二大テーマパークに関わってきた著者の二人が、通常とは異なる楽しみ方ができる視点を伝授。さらに、子どもの可能性を引き出す学びの場として活用する方法も教えてくれます。



子どもはなぜ
勉強しなくちゃいけないの?

著：おたとしまさ
日経BP社
1365円
親なら一度は聞かれる問い、「なぜ勉強しなくちゃいけないの?」に、養老孟司氏、内田樹氏、茂木健一郎氏、藤原和博氏、福岡伸一氏、坂東眞理子氏、などといったそうそうたる面々が答えています。勉強の本当の意味を考えさせる良書。

子どもにオススメブック&教材 好奇心とやる気をアップ!



別冊宝島 2046
『親野智可等の7日でスイスイ書ける!『作文力』教室』
著：親野智可等
宝島社
680円
空いたスペースの穴うめ書き込んでいくだけで、1週間作文がうまく書けるようになる小学生向けドリル。書くことが苦手な子でも慣れることができるという仕掛けもいっぱい。秋の行事作文にぴったり。



こころのふしぎ
なぜ? どうして?
監修：村山哲哉
高橋書店
893円
「おぼけは、どうしてこわいの?」「ごめんねを上手に言うほうほうは?」など、なかなか説明しにくい、「こころの不思議」を分かりやすく説明してくれています。読むと人に対して優しく接せられそう...そんな一冊です。



世界の美しい透明な生き物
著：武田正倫、西田賢司
エクスナレッジ
2940円
世界中から集めた透明生物の生態写真229点が壮観。朝露が滴る山々、密林の奥地、熱帯の泥の川、光の差さない洞窟、大海原、深海、サンゴの森、ミクロの世界などの透明な生き物が神秘の世界にいます。



なぜだろうなぜかしら
10分でわかる! 四字熟語
著：柏野和佳子、平本智弘
実業之日本社
945円
「語彙力がぐんとアップ」とすると教育の専門家も、よくすすめることわざや四字熟語。この本は学校・遊び・家族・くらしなどの場面別に、日常的にどんな使い方がされるか、成り立ちとともに解説されていて役立ちます。



写真上／日本製の電子顕微鏡で研究。写真左上／ステージ前の「客席」に、学科ごとにプラカードを上げてまわって卒業式を観る。卒業生はタスキをかける慣習だ。写真左下／バクー国立大学のみならず、アゼルバイジャンの大学の卒業式はライブ会場の様相だ。ステージ上で、学長の挨拶、成績優秀者の表彰などが行われる。

After Interview

教育は国の将来を左右する

20年前。世界のどの都市のホテルに泊まっても日本語放送のテレビチャンネルがあった。しかし、今では東南アジアの一部を除き、日本語のチャンネルは姿を消した。代わりに、中国語、アラビア語、ロシア語の放送が幅を利かせている。世界における日本の地位の低下を示す象徴的な現象だ。

そういう中、「逆張り」的に日本との関係を強化している国がある。アゼルバイジャンはその数少ない国の一つだ。アゼルバイジャンと石油は切っても切れない関係だ。20世紀はじめには、世界の石油の半分を産出していたアゼルバイジャン。ノーベル賞やダイナマイトで有名なノーベルの甥っ子3人がアゼルバイジャンに設立したノーベルオイル社は、ロシア革命直前には世界第2位の規模を誇る大企業だった。その資金がノーベル賞の賞金の原資の一部になっていたという。

今もアゼルバイジャンは石油価格の高騰により潤い、過去5年でGDPが10倍になり、貧困率は64

%から9%に急減した、21世紀の「奇跡の国」である。

そういう「奇跡の国」が、日本を「戦後の奇跡」と認識し、日本の良いところを見習おうと、代表的な大学に日本文化と日本語のコースを導入している。

外国の教育政策は非常に戦略的だ。アゼルバイジャンももちろん。日本でも、センター試験の英語をTOEFLにしている。とかいいう提案なども出されている。しかし、さらに戦略的な教育政策が必要だと個人的には思う。

小さなことが子どもの動機に

インタビューの中で、講師を務めるジャミラ先生に「なぜ日本科を選んだのか」と聞いたところ、子どもの頃に漢字の本をもらったことをきっかけに、日本に興味を持ったということだった。ささいなことが子どもの進路に影響した例だ。

子どもは自分の進路をあくまで自分で選ぶ。親は強制をすることはできない。ただ、刺激を与えることや、環境を与えることはできる。そのよい例だと感じた。

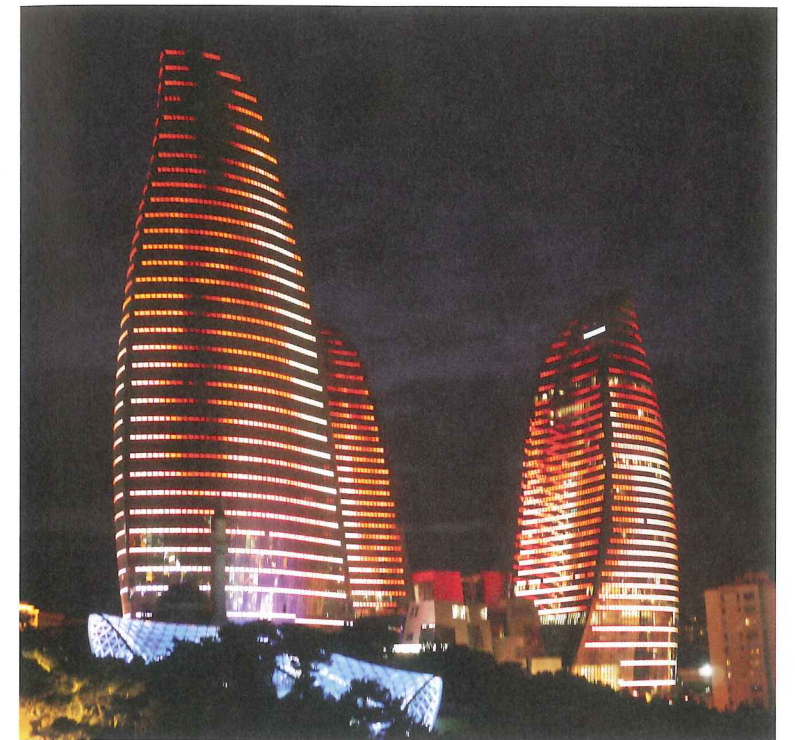
れた奥ゆかしい表現方法で、そういう言い方があるのかと驚きました。それをきっかけに日本の歴史や文化について興味を持つようになりました。本を読むと、日本は第二次世界大戦で敗戦し焼け野原になったにも関わらず、そこからわずか30年の間に世界屈指の発展を遂げたとありました。西洋ではドイツが、東洋では日本が勤勉な国民性をいわれていますね。私の

専門は石油化学ですが、その分野でも日本の技術は卓越しています。

石井 それが日本科を設置したきっかけだったのです。

マハラモフ 私は1999年には学長になっていましたので、日本との関係で活躍する人材を育成するために2000年、東洋研究学部には日本科を設置しました。

石井 マハラモフ先生は国會議員



昨年完成したフレームタワー。拜火教誕生の地でもあるアゼルバイジャンの首都バクーにできた炎（フレーム）の形の3棟の高層ビルで、夜には揺れ動く炎のように見える。石油で潤うアゼルバイジャンの象徴だ。

として日本との友好議員連盟の会長もなさっておられますね。

マハラモフ 日本側は甘利明さんが友好議員連盟の会長です。今は重職でお忙しいようですが頻繁に連絡していますよ。ただ日本との関わりは政治だけではありません。もともと私は化学者ですが、この大学では日本から買った電子顕微鏡を使って化学の研究をしています。

石井 では極東言語文学学科の詳細については、学科長のオクタイ先生に聞きましょう。先生は日本語がペラペラですが、どちらで学ばれたのですか？

オクタイ 私は1992年から一年半、横浜国立大学工学部建設学科に留学しました。帰国後、日本文化センターをつくって日本語を教えたり、私立のバクーアジア大学で教鞭をとっていたところ、バクー国立大学で日本科を設置するというところで責任者として赴任することになりました。

石井 駐日アゼルバイジャン大使館で働いている外交官の中にはオクタイ先生の教え子もいますね。

オクタイ はい。卒業生は活躍しています。この学科は約40人の学生しかいない小さな学科ですが、

アゼルバイジャンでは有名です。学生は4年間という短い期間で日本語を話せるようになるからです。たとえば、昨年モスクワで行われた国際学生日本語弁論大会では当学科の学生が3位に入賞しました。ほとんどの学生は入学時点では日本語はまったく話せませんが、最初の学期でひらがなとカタカナを覚えます。そして在学4年間で、1500字の漢字を覚えな



右からジャリルベリ・オクタイ教授、村木佳子先生（国際交流基金から派遣）、ジャミラ先生、エラダ先生。